

令和5年度 第2回西部保健医療圏地域保健医療協議会(全体会) 議事録

- 1 日 時 令和5年11月8日(水) 午後7時00分～8時30分
2 場 所 西部総合事務所米子保健所 大会議室 及び WEB 開催
3 参加者 合計46名(来所23名、WEB 参加23名)
(委員11名、オブザーバー22名、アドバイザー1名、事務局11名、傍聴1名)

4 内 容

(1)開会・挨拶

- ・協議会(全体会)委員14名中、11名の参加のため、鳥取県附属機関条例第5条により、会議成立の報告。
- ・人事異動により交代された新委員の紹介。(鳥取県保険者協議会 市原良之氏)

(2)報告事項: 第2回鳥取県西部保健医療圏地域保健医療協議会での協議状況【資料1～2】

- ・鳥取県西部保健医療圏地域保健医療協議会開催状況の報告。
- ・第2回目の3部会(健康づくり部会、医療提供部会、へき地・救急医療部会)での協議意見の報告。

【質問】

- ・委員:日当直医の確保が難しいというのは、市内でもあるのか。
→事務局:中山間地域の病院は日当直医の確保が難しいという話は元々あるが、市内の一部の医療機関でも確保が難しいという意見があった。市内の拠点となる病院でも医師の高齢化等の課題があり、今後は今の医療提供体制を維持できない可能性があるという発言もあり、資料のとおり記載させて頂いた。

(3)協議事項:

①第8次鳥取県保健医療計画(西部保健医療圏地域保健医療計画)(案)について【資料3～4】

- ・第8次西部保健医療圏地域保健医療計画の主なポイントは、資料3の2.①～⑥参照。
- ・現行の計画から、内容を追加・修正した内容に、下線を引いている。
例:小児医療(医ケア児)、新興感染症発生・まん延時における医療、在宅医療

【意見交換】

- ・委員:意見がなければ、このまま最終意見という形になるのか。
→事務局:意見がなければ、このまま県庁に計画案として提出させて頂いていただく。
- ・事務局:資料4(p15)の脳神経内科を標榜するのは済生会境港総合病院も入るため、4病院として訂正する。
- ・会長:意見がなければ計画(案)を承認ということで良いか。→承認。

②西部圏域の地域医療構想の推進について【資料5】

<西部圏域における医療提供体制(案)について協議>

- 事務局:各病院の考えを提出いただいたが、全体として地域医療構想推進の数値に近づいているかどうかを検討するため、機能別の病床数についてまとめた。地域医療構想策定時と比較して、高度急性期の病床数は変わらず、必要病床数より多い。急性期は若干減少、回復期は以前よりは増加。慢性期は変わらないが、年度末に介護療養病床が介護医療院等への転換があれば、今後動きが出ると考えている。高度急性期については大学病院もあり、一定の病床確保は必要。急性期は、実質的には回復期の機能もっている病床もあると認識。コロナ対応では急性期病床での対応が必要となり、レセプト分析結果より数値だけをみて減らすというのは検討が必要。慢性期は介護施設や在宅療養が増えれば減少するかもしれない。次期地域医療構想の策定が予定される他、病院の建替え等もあり、今後も経過をみる必要がある。

【意見交換】

- ・委員:コロナの経験から、急性期病床は簡単に減らせない。大学の機能を考えても高度急性期も減らせないし、回復期、慢性期で数値が動くかと個人的には考えている。
→会長:見直し等の意見はないか? 意見がないので、案については合意とする。

<「公立病院経営強化プラン(案)」に記載される基本的対応方針について協議(日野病院、日南病院)>

■日野病院から説明

経営強化プランの全体像は完成した。日野病院の役割として、①身近なかかりつけ医機能、②地域包括ケアを推進する病院、③地域医療を教育する病院が3本柱。急性期99床、うち地域包括ケア病床25床。実際は、急性期の半分が回復期。かかりつけ病院なので、リハビリ等を含めたかかりつけチームを作り、福祉の問題、家庭の問題にも対応したい。

鳥取大学の出先の外来という考えで、できる限り日野病院で診療し、必要であれば大学等へ紹介するという流れで行っている。

小児人口が減少する中、小児医療は予防接種、行政サービスも含めた役割として、今後自治体間で連携して雇用する方向である。高齢者は多臓器疾患をもつため、専門医だけでなく、一般内科や総合診療医により全身ケアしていく。

人材確保について地域連携を实践できる医療人の育成をしていきたい。看護師、薬剤師も確保が難しい。

■日南病院から説明

今後の人口動態等をふまえて、日南病院あり方検討委員会で今後の方向性を検討している。築 50 年たっており、移転改築を検討している。

現在急性期 59 床、慢性期 40 床だが、今後 60 床程度へ減らしたい。町内に無医地区もあり、へき地医療拠点病院を目指したい。日南病院の目指す方向性として高齢者の生活を支える病院を目指していきたい。

町内の民間歯科医院を新病院に新設し、歯科診療・口腔ケア等に対応していきたい。総合診療科を設置し、内科等と連携して、医療を提供したい。健診など予防医療にも力を入れていきたい。

【意見交換】

- ・オブザーバー:意見なし。
- ・地域医療構想アドバイザーからコメント:計画内容については妥当と考える。
- 会長:両病院の公立病院経営強化プラン(案)については、合意とさせて頂く。

③地域医療介護総合確保基金の提案について【資料6】

- ・事務局:養和病院から新規事業メニュー案の提案あり。病床削減、病床機能分化の内容であり、事業提案について本会議に諮ることになった。本日の会議で了解を得た場合は、養和病院から医療政策課へ事業提案し、全県の医療対策協議会、医療審議会にて審議することになる。
- ・養和病院:資料に基づいて、事業内容を説明。

【質疑応答/意見交換】

- ・委員:精神科の急性期病床は圏域でも多くはないと思うが、18 床減少して大丈夫なのか。
→養和病院:院内の経営会議でも 50 床のうち 40 床を埋めようとしているが、時代の変化で疾病構造の変化もあるのか統合失調症だけを抱えている患者は減っている。35 床程度あれば問題ないという考え。認知症患者対応等のため、個室化をし、対応していきたい。
事務局:医療計画の基準病床数に対し、既存病床数は上回っている。大学や養和病院で急性期の治療後に、地域に帰っていくというのが大きな流れと考えている。
- ・委員:養和病院だけの問題なのか、事業を使う必要があるのかという点が議論になるかと思う。
- ・委員:県としてはどの事業メニューを対象と考えているのか。
→事務局:既存メニューに「精神科医療機関機能分化推進事業」があるが、精神科は一般病床と異なることもあり、医療政策課から地域の調整会議でも協議するよう意見があった。
- ・地域医用構想アドバイザー:予算額は、病院で再度検討し、(齟齬がないよう)しっかり提案したほうが良い。
- ・会長:このメニュー提案について意見はないか→了承。

(4)その他:紹介受診重点医療機関の選定について【資料7】

- ・事務局:前回の会議(7/21)で西部 5 病院について協議・決定したことを報告。鳥取県のホームページに、全県で9病院が選定されていることを紹介。

【意見交換】

- ・オブザーバー:資料に、待ち時間の短縮が期待されると書いてある。スムーズに受診できるところまではいいいが、紹介状をもってこられたとしても待ち時間が減るかどうかはわからない。記載内容を検討して頂きたい。
→事務局:ワンクッションを作り、必要な人が受診するという流れを作るのが事業の目的。結果として受診がスムーズになり、待ち時間が減ることを期待する趣旨と思う。
医療政策課:ホームページの記載内容の表現について、医療政策課の中で検討していきたい。

※今後の方針

- ・保健医療計画については最終案として県庁に提出する。地域医療構想については基本的方針として合意を得たとして報告する。養和病院の提案についても了解を得たと県庁に報告する。